

桜中だより

長崎市立
桜馬場中学校
校長 大塚 潤

家庭と連携して学び方の育成を

一生ものの身に付けさせたい

あるクラスで、生徒たちが開発途上国への援助の仕方を含んで考えていた授業でした。「募金をしよう」「病気になるらないよう、薬を送ればいい」「発電機を送れば、水を薬に汲み上げることができ

るなど、ものやお金に目を向けたアイデアがたくさん出されました。いずれもユニセフ募金の経験やテレビなどによる既知の知識を踏まえた生徒らしい意見でした。

さを感じた先生は、このあと次の資料を提示しました。「一匹の魚を与えれば、その日だけの食べ物にしかなりませんが、しかし、魚の捕り方を教えれば、一生



笑顔の森が桜中玄関にできました！

の食べ物を与えたことになりませう。」

これを読んだ子供たちは、開発途上国に援助するスキも同じように、「一匹の魚(物)を与えるよりも、魚の捕り方(技術・技能)を身に付けることが大切であることに気づきました。援助物資は一時的には役立つても、なくなればまた援助が必要になります。開発途上国の自立を促すことにはつながりませぬ。魚の捕り方を教えれば、それを生かして一生生きていくことができます。

これまでの学校教育では、知識や技能を身に付けるために様々な努力がなされてきました。いろんなことを知っていること、上手にできることを善しとしてきました。「生き字引」とか「昔取った杵柄」といった言葉が頻繁に使われた時代もありました。ところが、情報が日進月歩変化し、増加する社会においては、知識や技能を教えることに自ずから限界があります。また一旦身に付けた知識や技

能も時間が経つと、忘れられたりあやふやになったり、ときには使えなくなったりします。私達は日常生活において、漢字を忘れたときや言葉の意味を知りたいときには国語辞典で確かめることができます。それは国語辞典の使い方を身に付けているからです。PCの検索方法を習得している、知りたいことをいつでも調べるすることができます。

日本の学校教育では、これまで「学び方」に関する指導をそれほど重視していませんでした。「学び方」とは、具体的に、グラフや図表などの資料の読み取り方、問題解決の方法、見学や観察、実習などの仕方、PC等情報機器の使い方、討論の仕方、「ミニ二セッション」とり方などです。世の中の様々な事象を情報とその結びつきとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見解決したり、自分の考えを形成したりしていくために必要な能力が求め

られています。これらはいずれも「一匹の魚」に当たる知識や技能(内容知)ではなく、「魚の捕り方」に関する知識や技能(方法知)といわれるものです。成長・発達の途上にいる子供たちがこれらの「学び方」を習得することにより、生涯にわたって学び続けるために必要な一生ものの財産を手に入れ、自立・自律して学んでいけるようになります。本校の研究テーマは「自律した学習者の育成」です。教室を子供たちが未来を感じられる空間になるような授業づくりを通して、すべての子供の可能性を拓く「学びに向かう力」の涵養に努めています。

「なごみ」を育てる

しっかりした大人へのステップとして、2つの要素を考えてみました。ひとつは「積極性」、もうひとつは「責任感」です。子供たちはいずれ大人になり、集団社会に入って、自分の人生を送っていきます。そこでの生活に必要な資質のひとつは、社会の一員として、人間関

係を円滑に保つていくための責任感であり、これが「人から信頼される生き方」の基本となります。もうひとつは、集団の中で自分の良さや力を発揮し、伸ばしていくための「積極性」だと思います。では、その2つを私達大人は学校と家庭でどう育てていったらよいか、それぞれ10のポイントに絞って示してみました。今回は、「積極性」をご紹介します。

積極性を育てるポイント

- 1 やりたいことごとん挑戦させる。
- 「あれ駄目、これ駄目、早くしなさい」「対応は子供をしほませませす。
- 2 大人の判断・価値基準を、子供が行動を起す前から押しつけない。
- 大人より前に出られない、決断力・判断力の乏しいビクビク人間になる。
- 3 積極的に取り組んで生んだ結果を大いに評価する。
- その積み重ねが何事にもチャレンジする前向きな人間を育てる。
- 4 少しくらの間違い



があつても責めない。貴重な体験と捉え、励ます。すると、少々の間違いや失敗を気にせず、次々と積極的に取り組める。

5 大人も日常的に積極的に取り組み、楽しい、生き生きとした姿を見せる。積極的にやればあんなにはつらつと生きられるんだと、子供も大人の生きる姿に魅力を感じるようになる。だからといって、その姿勢を強制しない。強制されると、子供の目から見て、魅力が失せ、それどころか、大人の存在がかえって積極性を失わせるとなる。

6 進んで取り組むと、よい良い結果を生むことが多いことを伝える。躊躇しているときの大人

人のひと押し、励ましが次の積極性を生む。

7 ゲームト(駄目く元々)精神で、気楽に取り組むよう勧める。

進んで、気楽に全力投球してみると、意外にいい結果が出る(と多し)。

8 工夫・改善の生活態度を常々養う。

工夫・改善の姿勢の持続が失敗をも成功の土台にしてしまう。

9 進んでやると、思わぬ力が発揮できることを身をもって分らせる。

後追いつけるよりは先を走った方が、未知自分の能力を発見しやすい。

10 他人の目は節穴ではない。積極性は必ず評価されることを教える。

人はいつもよそを向いて

いるようで、常に他の人に関心を寄せている。誰がどんなことをしているか、力のある人ほど他人の力をよく見ている。



○自分は、ゴルフをするのが初めてで、練習でやってみました。練習でホールインワンを初めてしたので、来年も参加します。

ゲートゴルフなので、初心者でも、安全に気楽に、簡単にできるので、是非参加してみてください！

2-2

○ゴルフは初めてでしたが、地域の方と一緒に得点を競ったりするのは楽しかった。賞をもらいたかったけど下手だったのでもらえなかった。来年もこのような行事があったら参加したい。

2-4

○ランドゴルフをするのは初めてで、難しかったけどとても楽しかった。やっぱり地域の人達はとても上手でかなわなかった。最初の方は、全然いいスコアが出なかったけど一つ一つのホールを進めることに上手になっていくの

を実感できたのが特に楽しかった。

2-3

○一緒にやっている人と打数を競ったりして楽しかった。でもホールインワンは1回もなかったから来年は、2回ぐらいは、ホールインワンしたい。一緒に場所を探してくれた人や、親しみを持って接してくれた地域の人がいって嬉しかった。

1-1

○お年寄りの方がすごく強くてびっくりした。自分の力がまだまだだと感じるとともに楽しさを実感できた。地域の人達との交流する機会をもっと増やそうと思った。来年も参加をしようと思った。

2-4

○ソフトテニス部だったので、自分の後輩ともう一度楽しく関わる機会になったことが良かった。また、いろいろな方との交流の機会にもなり、お年寄りの方ともふれあえたこともまた、楽しかった。このような地域が主催する大会や運動にも、もっと参加していきたい。

3-1

☆ホールインワン賞

○ランドゴルフを体験してゴルフって楽しいなと思って。なぜかというところも入るから入らないかとかでも楽しかったから。また地域の人から気軽に話しかけてくれたりも優しく地域の人との関わりがもててとても良い機会になった。

1-1

☆ブービー賞

○ランドゴルフは初めてで、すごくむずかしかったけど楽しむことができた。やっぱり地域の人たちはとても上手で敵わなかった。

2-2

○ランドゴルフは初めてだけれども思ったよりできて面白くてしかも賞も取ることができてとても面白かった。またこのような行事があったならぜひ参加したい。

2-2

☆飛び賞

○ゴルフはとても楽しかったし普段関わらない学年や年齢の人と関わるのができてとても良かった。

3-1

○初めてでも楽しくできた。地域の人達はやはり



ゴルフが強いなど改めて思った。じゃれ合っていたりするときもあったのでそこらへんは今度改善しなくてはいいかなと思う。

1-1

地域の方々と交流できて楽しかった。

年末の交通安全県民運動 12月13日(水)～22日(金)

- ◆スローガン もちましよう 心の余裕と 車間距離
- ◆重点

- 飲酒運転等の悪質危険な運転の根絶
- 歩行者の道路横断時の交通事故防止
- 全ての座席のシートベルトの着用と

チャイルドシートの正しい使用の徹底